

平成24年度

第3/3回

(集団研修)

自然・文化資源の持続可能な利用

(エコツーリズム)

実施要領

平成24年8月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 案件目標	2
4. 単元目標	2
5. 研修成果品	2
6. 研修員参加資格要件	3
7. 研修実施体制	3
8. 研修の評価	4
9. 研修付帯プログラム	4
10. 主な宿泊場所	5
11. その他	6

付属資料

付表－1 研修員関連情報

付表－2 カリキュラム（案）

付表－3 平成24年度日程表（案）

付表－4 年度別受入実績表

1. 案件基本情報

(1) コース名

和文：（集団研修）自然・文化資源の持続可能な利用（エコツーリズム）

英文：Group Training Program on “Eco-Tourism for Sustainable Use of Natural and Cultural Resources”

(2) 受入期間

平成 24 年 8 月 20 日（月）～10 月 2 日（火）

(3) 技術研修期間

平成 24 年 8 月 27 日（月）～10 月 1 日（月）

(4) 定員、割当国

定 員：7 名

割当国：アルゼンチン、ケニア、スリランカ、タイ、ウガンダ、バヌアツ、ベトナム、（下線は受入国）

(5) 類型 人材育成普及型

(6) 使用言語 英語

2. 案件の背景・目的

国連は、観光に持続可能な開発の視点をより多くの人々に取り入れてもらうため、2002 年を「国際エコツーリズム年」と定めた。エコツーリズムとは地域の自然や伝統文化を体験し理解を深めながら、そのよりよい保全と地域振興に貢献することを目指している。

世界観光機構（WTO）では、持続可能な観光として、保護する観光の対象を自然資源だけでなく歴史遺跡や伝統・文化など有形無形な資源にまで広げるとともに、貴重な観光資源を観光客がすり減らすことなく、次世代にも伝えていくということと定義付けている。多くの途上国においては、観光産業は大事な外貨獲得の手段となっているとともに、地域住民の雇用機会創出と地域経済活性化という点で地域開発の面においても重視されており、観光資源の開発と保全の両立は切実な課題となっている。同時に、環境保全は経済・社会発展において極めて重要な課題となっており、緊急の課題である。

本コースでは、地域の自然・文化資源の保全とその持続的利用を可能にするツールとして、地域住民の参画によるエコツーリズムを導入するための施策を学ぶことを目的としている。

3. 案件目標

エコツーリズムの導入を予定している地域で、地元住民を巻き込んだ持続的地域開発のツールとしてのエコツーリズム手法の導入・普及計画案が、所属部署において作成される。

4. 単元目標

- (1) 自然、文化資源の保全と持続的利用にかかわる「エコツーリズム」の理念、施策について理解し、説明できる。
- (2) 環境保全に配慮した「エコツーリズム」推進のためのプランについて議論できる。
- (3) 地域住民や関係者とのネットワーク構築のための手法を説明できる
- (4) エコツーリズム導入手法に関する行動計画（案）の作成ができる。

5. 研修成果品

- (1) 本邦研修実施前

「初期報告書（Inception Report）」の作成

研修員の担当地域・保護区での課題分析や、それに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に発表する。

- (2) 本邦研修終了時

「中間報告書（Interim Report）」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に単元目標（4）にかかる行動計画（案）を作成し、コース終盤に中間報告を発表する。

- (3) 帰国後の事後活動

「最終報告書（Final Report）」の作成

研修員は帰国後、中間報告書に書かれた行動計画（案）を所属組織に報告、関係者と共有のうえ検討され、最終的な行動計画をまとめ、帰国後3ヶ月以内にJICA帯広に提出する。

6. 研修員参加資格要件

(1) 募集要項記載条件

- ア. 環境保全のためのエコツーリズムを企画・推進する立場にある者（中堅行政職等）
- イ. 当該分野で2年以上の経験がある者
- ウ. フィールド研修のできる十分な体力と精神力がある健康な者

(2) 各案件共通資格要件

- ア. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること
- イ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること
- ウ. TOEFL IBT 72点（CBT 200点／PBT 533点）以上に相当する英語能力を有すること
- エ. 心身ともに健康なこと
- オ. 軍に属していないこと

7. 研修実施体制

本コースは、コースリーダーである新庄久志氏の助言のもと、独立行政法人国際協力機構北海道国際センター（帯広）（以下 JICA 帯広）が計画するコースの実施に関する業務を釧路国際ウェットランドセンター（以下 KIWC）に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。技術研修期間中、JICA は研修監理員を配置する。具体的業務分担は次のとおり。

(1) JICA 帯広

- ア. 実施計画書作成（案件目標、単元目標、研修期間等）
- イ. 評価
- ウ. 実施予算の執行管理
- エ. 募集要項および実施要領等の作成等

(2) KIWC

- ア. 日程表の調整・作成
- イ. 講師、視察先等への連絡・確認

ウ. テキスト、資料等の手配 等

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言等

(4) 研修監理員

ア. 関係者間の連絡調整

イ. 通訳・翻訳等

8. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件到達目標（1頁参照）に基づき、研修成果の測定、分析を通じてコース終了時に、当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本コースの質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による案件目標の達成度把握

イ. 研修員が提出する質問票による評価

ウ. JICAによる評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、KIWC 等が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度のコース改善に向けて対応方針を検討する。

9. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に、JICA 帯広で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明のほか、日常生活を送る上での諸注意等を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

JICA 帯広で実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、政治・経済・教育・行政などを紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として7.5時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程(予定)

日 程	内 容
8月21日(火)	ブリーフィング
8月22日(水)	午前 ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の政治・行政機構」 午後 ブリーフィング (生活オリエンテーションバスツアー) 夜間 日本語講習①
8月23日(木)	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の経済」 講義「日本の教育」 ブリーフィング(帯広の森等視察) 夜間 日本語講習②
8月24日(金)	インセプションレポート発表会準備 夜間 日本語講習③

10. 主な宿泊場所

北海道国際センター(帯広) (JICA 帯広)

所在地: 〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1-2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

釧路ロイヤルイン

所在地: 〒085-0018 釧路市黒金町14丁目9-2

Tel (0154) 31-2121 Fax (0154) 31-2122

11. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本案件に地域の小中学校の生徒や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

以上



独立行政法人国際協力機構 北海道国際センター（帯広）
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
ホームページ : www.jica.go.jp/obihiro/
メール : jicaobic@jica.go.jp

平成24年度(集団)「自然公園の管理・運営と利用(エコツアー)」研修カリキュラム案

コース目的：自然環境及び自然公園の管理・運営と利用において、国際環境法の理念に基づき、自国の自然環境保全と資源の賢明な利用について意識を高め、普及啓発を促進できる人材を育成する。

項目	科目	講義	実習	視察	プログラムの内容とねらい
単元目標1：自然・文化資源の保全と持続的利用にかかわる「エコリズム」の理念・施策について理解し、説明できる。					
エコリズムの理念	エコリズム総論	3.0			エコリズムの理念と概要について、世界各国の事例を参考に学ぶ
エコリズム理念	文化史跡とエコツアープログラム	2.0		1.5	文化資源の保全と連携したエコツアーについて、京都等の事例を参考に学ぶ
エコリズムの理念	地域におけるエコリズムの取り組み(ラムサール条約との連携)	2.0			釧路地域における事例紹介を通じ、エコツアーをラムサール条約の「湿地の賢明な利用」の一例として位置づけ、条約の理念・方針に基づくエコツアーのありかたについて学ぶ
エコリズムの施策	日本における国立公園の管理・運営	2.0			日本における国立公園の運営を紹介し、自然環境の保全、及びその利用のために必要な施策について学ぶ
エコリズムの施策	日本のエコリズム施策	2.0			日本における法整備や普及啓発事業等を紹介し、中央政府によるエコリズムの推進のための施策について学ぶ
自然環境保全・自然資源管理	湿地保全とエコツアー(キラコタン岬)		5.0		釧路湿原天然記念物指定区域での湿地モニタリングを紹介し、自然公園・保護区におけるモニタリングの意義と手法について学ぶ
施設の整備と利用	国立公園の施設の利用(釧路湿原展望台・釧路湿原温根内)		3.5		湿原に面した丘陵地における遊歩道の事例を紹介し、遊歩道設置における植生への配慮や、多様な自然環境を紹介するためのレイアウトの工夫、エコツアーや環境教育での活用方法について学ぶ
施設の整備と利用	国立公園の施設の活用		2.0		国立公園内の自然情報施設を紹介し、展示手法や環境保全教育プログラムをはじめとする普及啓発活動について学ぶ
単元目標2：環境保全に配慮した「エコリズム」推進のためのプランについて議論できる。					
エコリズムモデルプログラム	自然公園のエコツアープログラム(シーカヤック・トレッキング)		5.0		湖でのシーカヤック、ハイキングの事例を通じ、地域の自然を環境改変の少ない方法で活用するエコツアープログラムについて学ぶ
エコリズムモデルプログラム	自然公園のエコツアープログラム(ダッチオープン料理体験)		3.0		地産農作物を、野外調理体験などのプログラムとして提供するプログラムを通じ、地域産品の観光利用の手法について学ぶ
エコリズムモデルプログラム	自然公園のエコツアープログラム(白雲山登山・ナキウサギ観察)		5.0		野生生物の生息に配慮したツアー運営、ならびに登山初心者の安全確保のための配慮や工夫について学ぶ
エコリズムモデルプログラム	ラムサール湿地におけるエコツアー(別寒別牛川カヌー)		2.0		特別天然記念物タンチョウが繁殖する別寒別牛湿地におけるカヌープログラムの事例について紹介し、希少野生生物の生息地でのエコツアーにおける、配慮とガイドラインの必要性について学ぶ
エコリズムモデルプログラム	里山におけるエコツアー		5.0		千葉県の上野原を紹介するエコツアーを事例に、里山の身近な自然を活用したツアープログラムや、地域住民への普及啓発の可能性について学ぶ
エコリズムモデルプログラム	地域の伝統文化とエコツアープログラム(東京・浅草)	1.5		1.5	東京・浅草で実施されている人力車体験プログラムを紹介し、伝統文化の保存と観光への活用、地域づくりとの連携について学ぶ
エコリズムモデルプログラム	地域の環境保全とエコツアープログラム		3.0		地域の環境保全と連携した「華道」「茶道」を通じて、地域の自然と結びつきの強い伝統文化を紹介し、エコツアーにおける伝統文化のファシリテーションについて学ぶ
エコリズム手法・国際環境法との連携	地域を活かしたエコツアープログラム(塘路湖の漁業者運営によるカヌー、湧水観察)		2.5		国立公園・ラムサール登録湿地における漁業者の副業としての観光カヌー運営と、地域産業の現場である水環境の保全・管理の自主的な取り組み事例について学び、地域産業を活用した住民主体のエコツアー運営と環境保全との関わりについて理解する
エコリズムモデルプログラム	フィールドを生かしたエコツアープログラム(釧路湿原細岡)		2.0		釧路湿原細岡地区の先史時代の遺跡や湧水などを紹介するエコツアープログラムを通じ、ツアーや環境教育の素材となる地域資源を見出すための視点やその具体的な活用方法について学ぶ
エコリズムモデルプログラム	地域における施設の活用(細岡ビジターズラウンジ)		2.0		端材を活用したウッドレター製作の事例を紹介し、一般観光客も気軽に参加できるプログラムの開発や期待される環境教育的効果について学ぶ
エコリズムモデルプログラム	地域を活かしたエコツアープログラム(どさんこ乗馬によるハイキング)		5.0		北海道の在来馬を活用した環境に配慮したエコツアープログラムを紹介し、地域産業の観光・環境教育面での活用手法と地域づくりとの関わりについて学ぶ
エコリズムモデルプログラム	地域のエコツアーの取り組み(無人島ツアー)		3.0		漁業者による無人島(ケンボッキ島)ツアーの事例を紹介し、地域特性と産業を活かしたエコツアープログラムの手法と自然環境への配慮について学ぶ
エコリズムモデルプログラム	地域と連携したエコツアー(漁業者によるエコツアープログラム)		3.0		漁業者によるアザラシウォッチング、潮干狩り等のツアープログラムを紹介し、地域活用を利用したエコリズムと合わせて、漁業と野生生物との共生、資源管理等の課題について知る
単元目標3：地域住民や関係者とのネットワーク構築のための手法を説明できる。					
ネットワーク構築	地域の環境保全とエコツアープログラム(京都大覚寺)		1.5		京都の寺院庭園の環境復元と利用のために組織されたネットワークの活動を紹介し、専門家と地域住民との連携について討論する
ネットワーク構築	地域の湿原保全の取り組み(霧多布湿原トラスト事務局)		2.0		トラスト活動によるラムサール湿地・霧多布湿原の保全活動の事例について紹介し、地域住民を主体とする湿原保全活動について学ぶ
ネットワーク構築	地域の環境教育(霧多布湿原センター)		1.0	1.0	霧多布湿原センターの事例をもとに、自然系施設における展示の工夫や環境教育プログラムの開発、自然情報のデータベース構築等、施設を拠点とした地域向けの普及啓発活動の手法について学ぶ
ネットワーク構築	学校教育との連携(霧多布湿原センター)		3.0		霧多布湿原センターにおける校外学習としての環境教育プログラムの事例を紹介し、自然系普及啓発施設と学校との連携について学ぶ
ネットワーク構築	地域における環境教育の取り組み(厚岸水鳥観察館)		1.0	1.0	厚岸水鳥観察館を拠点とした、地域住民向けの野生生物・湿地保全に関する普及啓発の取り組みを紹介し、地域における自然系施設の役割について学ぶ
単元目標4：エコリズム導入に関する中間報告書の作成ができる。					
実習	文化史跡とエコツアープログラム		3.0	1.0	京都の二条城周辺を題材に、文化史跡を活用したエコツアープログラムの企画を試みる
作成指導	コースオリエンテーション、プログラムレビュー	1.5			研修の効果を上げるため、プログラムの概要や学ぶべき項目について事前に紹介する。
発表会	インセプションレポート発表会		2.0		研修員各自の業務内容、抱える問題、研修に求める事など関係者が互いに理解する
討論	プログラムレビュー			8.0	研修で学んだ内容を振り返り、自国におけるエコリズムの運営においてどう活かすか考える
討論	ファシリテーションミーティング		2.0		研修で学んだことや、帰国後の活動のアイデア等について、研修員主導による討論を行う
作成指導	インテリウムレポート作成指導	2.0			研修員によるアクションプラン作成の支援のため、プランの対象となる自国の抱える問題の整理やプランの実現性などについてコースリーダーが助言を与える
作業	インテリウムレポート作成		5.0		研修での経験や、コースリーダーの助言を元に、帰国後のアクションプランを作成する
発表会	インテリウムレポート発表会		2.0		本研修を活かした帰国後のアクションプランを通して理解度を測る

(小計) 20.0 61.5 22.0

総計 103.5

平成24年度 日程表(案)

月 日	曜日	午前/午後	プログラム	会 場	宿泊地
8月20日	月		来 日(帯広到着)		帯広
8月21日	火	終 日	ブリーフィング	JICA北海道(帯広)センター	帯広
8月22日	水	終 日	ジェネラルオリエンテーション/ブリーフィング/日本語講習②	JICA北海道(帯広)センター	帯広
8月23日	木	終 日	ジェネラルオリエンテーション/ブリーフィング/日本語講習③	JICA北海道(帯広)センター	帯広
8月24日	金	午 前	インセプションレポート発表会準備	JICA北海道(帯広)センター	帯広
		夜 間	日本語講習③		
8月25日	土		休 日		帯広
8月26日	日		休 日		帯広
8月27日	月	午 前	プログラム・カリキュラムミーティング	JICA北海道(帯広)センター	帯広
		午 後	インセプションレポート発表会		
8月28日	火	終 日	エコツアーリズム総論	JICA北海道(帯広)センター	然別
			移動: 帯広→然別		
8月29日	水	終 日	自然公園のエコツアープログラム	然別湖畔	然別
8月30日	木	終 日	自然公園のエコツアープログラム	然別湖畔	然別
8月31日	金	午 前	自然公園のエコツアープログラム	然別湖畔	帯広
		午 後	移動: 然別→帯広		
9月1日	土	午 前	プログラムレビュー&ブリーフィング	JICA北海道(帯広)センター	帯広
9月2日	日		休 日		帯広
9月3日	月	午 前	移動: 帯広→釧路		釧路
		午 後	釧路市長表敬	釧路市役所	
9月4日	火	午 前	地域におけるエコツアーリズムの取組み	釧路市観光国際交流センター	釧路
		午 後	国立公園の施設の活用	釧路市湿原展望台	
9月5日	水	午 前	フィールドを生かしたエコツアープログラム	釧路湿原・細岡	釧路
		午 後	地域における施設の活用	細岡ビジターズラウンジ	
9月6日	木	終 日	地域を活かしたエコツアープログラム	釧路湿原	釧路
9月7日	金	午 前	国立公園施設の活用	塘路湖畔	釧路
		午 後	地域を活かしたエコツアープログラム	塘路湖畔	
9月8日	土	終 日	湿地保全とエコツアー	釧路湿原キラコタン岬	釧路
9月9日	日		休 日		釧路
9月10日	月	午 前	プログラムレビュー&ブリーフィング	釧路市交流プラザさいわい	厚岸
		午 後	移動: 釧路→厚岸		
9月11日	火	午 前	ラムサール湿地におけるエコツアー	別寒辺牛川・厚岸湖	厚岸
		午 後	地域における環境教育の取組み	厚岸湖水鳥観察館	
9月12日	水	午 前	移動: 厚岸→浜中 地域の湿地保全の取組み	ケンボッキ島	厚岸
		午 後	地域のエコツアーの取組み 移動: 浜中→厚岸	霧多布湿原ナショナルトラスト	
9月13日	木	午 前	移動: 厚岸→浜中 地域と連携したエコツアー	霧多布湿原センター	厚岸

9月13日	木	午後	地域と連携したエコツアー 移動:浜中→厚岸	務多町環境センター	
9月14日	金	午前	地域と連携したエコツアー	厚岸町コンキリエ	釧路
		午後	移動:厚岸→釧路		
9月15日	土	午後	ホームビジット		釧路
		夕方	交流会	釧路ロイヤルイン会議室	
9月16日	日	休日			釧路

付表-3

9月17日	月祝	午 前	プログラムレビュー&ブリーフィング	釧路
9月18日	火	移動:釧路→東京		東京
9月19日	水	午 前	日本における国立公園の管理・運営	東京
		午 後	日本におけるエコツーリズム施策	
9月20日	木	午 前	地域の伝統文化とエコツアープログラム	東京
9月21日	金	終 日	里山におけるエコツアー	東京
9月22日	土祝	移動:東京→京都		京都
9月23日	日	休 日		京都
9月24日	月	終 日	文化史跡とエコツアープログラム	京都
9月25日	火	終 日	文化史跡とエコツアープログラム	京都
9月26日	水	終 日	地域の環境保全とエコツアープログラム	京都
9月27日	木	移動:京都→東京		東京
9月28日	金	午 前	プログラムレビュー&インテリウムレポート作成説明	東京
		午 後	ファシリテーションミーティング	
9月29日	土	終 日	インテリウムレポート作成・作成指導	東京
9月30日	日	終 日	インテリウムレポート作成・作成指導	東京
10月1日	月	終 日	レポート発表会 評価会 閉講式	東京
10月2日	火	帰 国		東京

年度別受入実績表

1. 応募／選定(受入)人数

	22年度	23年度	24年度	累計
応募数	12名	13名	10名	35名
受入数	8名	7名	7名	22名

2. 研修員の出身国

○男性 ●女性

国名	22年度	23年度	24年度	累計
(アジア全域)				
スリランカ	○○	○		3名
タイ	●	○	○	3名
ベトナム	●	●	●	3名
(中南米地域)				
アルゼンチン	●	●	○●	4名
(大洋州地域)				
バヌアツ		●	○	2名
(アフリカ地域)				
ケニア	○○	●	○	4名
ウガンダ	○	○	○	3名
計	6ヶ国 8名	7ヶ国 7名	6ヶ国 7名	7ヶ国 22名